

思いがけない出会い

八重樫 郁子

盛岡市白石地区矢沢林道、今年の早春、まだ山々の雪も多く残る頃、偶然見付けた絶景ポイントのある道路の名前です。

米内川流域の、かねてから通っている沢で、ゴミの出る場所の様子を見に行った帰り、まだずっと先になりそうなゴミの伸び具合に、次に来るのはまだまだ先だと思った途端、持ち前の冒険心に火が付きました。

今迄一度も通った事のない道へと、ハンドルを切ります。

何処へ向かうのか、行き止りなのか、解らないまま進んで行きます。

舗装はしてあるものの、あまりに曲りくねった、狭い道路に、少々不安を覚えながらも、ところどころにある民家は安心感につながります。

幾度となく、ひき返そうか、いやどこへ向うのか行ってみたいなどと迷い、実際に、ハンドルを戻

る方向へと切ったり。

落ち着かぬ思いと、この道がどこまで続いて、そしてどこへ向っているのかを確かめたい思いとが、交錯しつづけます。

少々ドキドキし、道端に残る雪に不安が増します。

途中のわずかな田は、最近みかける、大きな長方形が整然と並ぶものとは異なり、棚田風の曲線で縁取られた、昔懐かしいどこか可愛いものです。

春の里山は、柔らかな新芽が、木々の枝先から出はじめ、道端には可憐な花々も見られます。そんな風景に不安も和らげてもらい、行けるところまで行く決心がついた直後、今迄で一番急な登りにさしかかり、大きく右へのカーブを抜けた途端、左手方向の風景に、思わず息をのみました。

視界は雄大に開け、西方向には、雪がまだまだ残った山脈が、圧倒的な迫力と、気品溢れる姿で聳えていました。

白く光り輝く山々は、左端には和賀山塊、続いて秋田駒ヶ岳、乳頭山、三石山等々、そして右端には、岩手山が王者の如く、いちだんと高く大きく、白く輝く左側の山々を従えるように、威厳に

満ち、私を見下ろしてそこにありました。

息をのむ絶景としか表現のしようがありません。

このやまなみは、少し違った方向で、盛岡市内の別な場所からは目にははいましたが、角度、高さが全く別なものでした。

かえすがえすも残念なのは、その素晴らしさを共有する人がいない、私ひとりで出会った事でした。

登った事のある山々が、不思議な身近さで、何か語りかけて来るようです。

その日、その時の空気の澄み具合、峠周辺の山の樹木の伐採が綺麗に行われており、見通しが良かった事、全て揃ったその時、思いもよらぬ道へと入った私の行動が、感動的な景色を見る事に繋がりました。

その後、再びこの風景を見てみたい思いで、同じ場所に何度か行きました。友人も同じ思いで行きましたが、条件が整わず、あの日のようには行きませんでした。

しかし、忘れられない絶景は、目と頭にやきついており、再び出会う為に、足繁く通うつもりです。

朝座禅

八重樫 郁子

毎月第二、第四日曜日、朝六時、滝沢市篠木清雲院の本堂に、リンが三度鳴ると、早朝参禅会朝座禅の始まりです。

参加者は、多い時は二十人以上、少ない時は十二、三人です。

私は、六年前から参加させていただいています。物音ひとつしない状態で、咳等をする人もなく、座禅は三十分で終了。本堂反対側に移動した後、法要が行なわれます。

四十歳代の副住職の、よく通る、はりのある声での、三帰礼文、般若心経そして普勧坐禅儀に合わせて全員で唱えます。

その後、和尚さんのお経に手を合わせ、御本尊に、順番に御焼香し終了します。

本堂から場所を移し、朝のお粥をいただきます。その際、お箸を手にする前には、感謝を込めて五観の偈を全員で唱えます。全員がいただき終る頃、

法話が始まります。終ると、全員で普回向を唱え
ごちそうさまを致します。

決まりに従った座禅会ですが、時には笑ってし
まうような事もあります。

若い和尚さんは、眠い時もあるようで、終了の
リンを鳴らしましたでしょうかと、お粥の席で
我々に確かめたりされる事もあります。

法話は、バラエティーに富んだ内容で、時には
若い和尚さんの、二人の幼い子供さんの話になっ
たり、仏教について、社会情勢についてなど、参
加者に意見を求められる事もあります。三・一一
震災の後には、厳しい内容の意見交換がありました。

意見を求められた場合、一番にその対象となる
のは、参加者中最高齢、九十一歳の男性です。記
憶力に富んだ方で、はつきりと御自分の意見を述
べ、昨今の贅沢三昧な暮らしには、不快感を持っ
ているようで、そのまとまった話しぶりは、全員
年下である他の参加者の尊敬を集めています。

この早朝座禅会は、ずっと以前から行なわれて
いたそうで、前はおばあちゃんが参加していたけ
れど、今は寝たきりになるなどし、お嫁さんとか
娘さんとかが来ている、というケースが多く、お

寺のある篠木周辺の方が、大部分を占めています。
時には、小中学生、女子高校生も参加し、華やか
さを増す事もあります。

私が、参加したきっかけは、七年前の夫の葬儀
をお願いしたお寺だった事です。早朝参禅会が行
なわれている事を知ってはいましたが、しばらく
参加させてもらおう決心が、つかないでいました。
ゆっくり考えてからと、数ヶ月が過ぎた頃、やは
りどこか気にかかり、思い切って参加して、はや
六年近くが過ぎました。

慣れない頃は、冬の雪道がおそろしく、休ませ
て下さいと、前もって欠席届を出したり、うっか
り別な用事を入れたりしましたが、今は、生活の
一部になり、疲れを感じる朝でも、座禅に行くこ
すつきりし、また嫌な出来事は、不思議と座禅中
は頭に浮かばず、むしろ楽しい事や美味しいもの
を感じ、もはや私にとって欠かせない場所と時間
となりました。

風俗習慣の違いは、土地によって必ずあり、め
んくらったり、苦勞したりする事は、こんなに情
報化した世の中であっても、しばしばあります。

他県生まれである私には、思い切って地元が解

る場所に行ってみるのも、良いものだと感じています。

清雲院は、滝沢市のなかでは西に位置し、岩鷲山清雲院の名にふさわしく、本堂右奥に、岩手山の美しい姿を見る事ができます。

あたりは田や畑が多く、広々とした感じの地域で、北側には、時には白く、また青く、四季おりおり存在感を示す岩手山、南側にはJR田沢湖線があり、スーパーパーこまちの赤い姿が時折かけぬけて行きます。

今年もお盆がやって来ました。

毎年、決まった事を、その通り行う事、その元氣、体力がある事がありがたく、自分自身を励ましています。

座禅に支えられて暮らしています。